

神奈川 横須賀 英語 出題傾向と対策

出題傾向の分析

問 1 はリスニングテスト。短い文や対話を聞き、内容についての問いに答えるものです。リスニングは昨年同様独自校共通問題で、地図を見て答える問題が加わりました。リスニング以外では問 4・問 7 が独自校共通の問題です。問 2 は発音問題です。(ア) 複数形の s の発音、(イ) は過去形の-ed の発音を問う問題です。今まで発音の問題は出題されておらず、新しい傾向の問題となります。問 3 は誤りを含む部分を選ぶ問題です。誤りを含まない場合もあるため、難易度は高めといえます。問 4 では本文と付随するグラフの両方をきちんと読み取ることが求められています。問 5 と問 6 は長文読解問題です。両方とも内容一致問題が出題されています。12 個の選択肢から内容が合っているものを 3 つ選ぶ問題で、日付や時間を計算する必要があったり紛らわしい選択肢があったりするため、文を速く正確に読む力が必要です。問 7 は会話の流れに合うよう短文を書く条件作文です。問われている文法事項は基本的なものなので点を落とせない問題です。

入試までに準備しておくこと

共通問題と比較して、発音問題があること、長文の分量が多いことが全体の難易度を高めています。短時間に多量の英文を読むことが求められるので、読むスピードを上げることをまず意識しましょう。

今年度新たに発音の問題が出題されました。その内容を学習するのは中 1 なので、普段から文法だけでなく発音も意識して学習しておかないといけません。

会話文、長文問題は文が長いことと内容一致問題で文章の全体的な把握をしているかどうかが問われることから、文章の内容をしっかりと理解しながら速く読むことが重要になります。英語の語順どおりに左から右へ文を読み進めること、時間を計って一度読んだ文を何度も読み、時間を縮めていくことなどが効果的です。

リスニング問題は、継続的に英語を聞き取る練習が必要です。過去の問題や英検 3 級程度の聞き取り問題で練習することが効果的です。

また、さまざまな問題形式に対応できるように他校の独自入試問題、他県の公立高校入試問題などいろいろな種類の問題に触れることも大切です。

| 英語 分野別出題形式 | | 22年度 | 21年度 | 20年度 | |
|------------|----|-------------|------|------|----|
| リスニング | 記号 | 内容理解(含英問英答) | 8 | 8 | 10 |
| | 記述 | 英問英答 | | | |
| | | 和問和答 | | | |
| 小計 | | 8 | 8 | 10 | |
| 語彙 | 記号 | 綴り | | | |
| | | 語形変化 | | | |
| | | 発音・アクセント | 2 | | |
| 小計 | | 2 | 0 | 0 | |
| 文法 | 記述 | 適語(句)選択 | | | 2 |
| | | 適語(句)補充 | | | |
| | | 語順整序 | | 4 | 2 |
| | 記号 | 部分英作 | | | |
| | | 完全英作 | | | |
| 小計 | | 8 | 6 | 2 | |
| 読解 | 記号 | 内容理解(含英問英答) | 4 | 18 | 6 |
| | | 内容一致 | 16 | 10 | 12 |
| | | 段落・文整序 | | 2 | |
| | | 段落・文・節挿入 | | | 2 |
| | | 適語(句)・文選択 | 4 | 2 | 6 |
| | | 語順整序 | 2 | | 2 |
| | 記述 | 内容理解(指示語など) | | | |
| | | 語形変化 | | | |
| | | 空所補充 | 2 | | 6 |
| | | 和文英訳 | | | |
| | | 部分英作 | 4 | | |
| 小計 | | 32 | 32 | 34 | |
| 合計点 | | 50 | 50 | 50 | |

神奈川 横須賀 国語 出題傾向と対策

出題傾向の分析

例年どおりの大問 4 題の構成で、総小問数は 32 題でした。

問一は、漢字の書き、「で」の区別、語句の知識、俳句の鑑賞文の問題でした。「シジ(師事)」、「シジョウ(至上)」など同音異義語があるものが出題されています。韻文も今までと同様、俳句とその鑑賞文が出題されています。

問二は小説です。(ア)・(イ)は言葉の知識を問われるものです。傍線部についての設問は登場人物の心情を読み取れているかどうかを問われています。記述問題は登場人物の癖を 30~40 字以内で説明するという設問でしたが、癖について説明されているところに指定語句があるため、すんなりとまとめられるものになっていました。

問三は説明文です。小問数(9 題)は昨年同様でしたが、文章が少し短くなりました。設問も、文章内容の把握ができていられるかどうかを問うものが多く出されています。記述は一昨年、昨年よりも長めの 50~55 字で書くものでした。書き出しの語句をヒントに本文を探すと、指定語句は比較的容易に見つかりますが、それをまとめて一文にするのに手間取った人も多いようです。また、漢字の読みが問三の小問として 2 題出題されています。

問四は 22 年度に初めて導入された「独自校共通問題」の古文です。横須賀高校の過去の出題と比較すると、文章の量や傾向はほとんど変わっていません。時間配分に気をつけて、最後まで解答できるようにしましょう。

入試までに準備しておくこと

共通問題や他校の独自問題と比較して四字熟語や慣用表現などの語彙力を問う問題が多いです。小中学校の漢字の読み書きはもちろん、四字熟語、慣用句、ことわざ、その他の慣用表現は、多くの文章に触れたときに知らないものが出てきた際に、必ず辞書で調べる習慣をつけていく必要があります。

小説、論説、古文のいずれでも比較的長い文章が出題されることが多いため、本文の内容を速く正確に理解する力があるかどうか問われます。まずは多くの文章に触れ、説明文では様々なテーマの文章に触れながら段落ごとの要旨をつかむ練習、小説では登場人物の心情をつかむ練習、古文では「誰が何をしたか」の把握をしながら読む練習をしていきましょう。その際、時間を測りながら行うとより効果的です。

| ■出題分野一覧表 | | 22年度 | | 21年度 | | 20年度 | |
|------------|-------------|------|----|------|----|------|----|
| | | 記号 | 記述 | 記号 | 記述 | 記号 | 記述 |
| 漢字 語彙 | 漢字の読み取り | | 2 | | 2 | | 2 |
| | 漢字の書き取り | | 5 | | 5 | | 5 |
| | 四字熟語・語彙 | 2 | | 2 | | 2 | |
| 文法・表現 | | 1 | | | | 1 | |
| 敬語 | | | | 1 | | | |
| 韻文 | 俳句(鑑賞文含む) | 2 | | 2 | | 1 | 1 |
| | 短歌(鑑賞文含む) | | | | | | |
| | 詩(鑑賞文含む) | | | | | | |
| 資料を含む文章 | | | | | | | |
| 小説 | 心情を問う設問 | 8 | 2 | 8 | 2 | 5 | |
| | 場面を問う設問 | | | | | | |
| | 語句 | 2 | | | | 1 | |
| | 本文の内容を問う設問 | 2 | | 2 | | 4 | 2 |
| 論説 | 接続語の補充 | 2 | | 1 | | 1 | |
| | 傍線部の理由を問う設問 | | | | | 2 | 2 |
| | 傍線部の説明を問う設問 | 8 | | 8 | 2 | 8 | |
| | 語句 | | | 1 | | 1 | |
| 本文の内容を問う設問 | | 2 | 2 | 4 | | 2 | |
| 古文 | 主語を問う設問 | 2 | | | | 2 | |
| | 仮名づかい・語彙 | | | | | | |
| | 傍線部の理由を問う設問 | | | | 2 | | 2 |
| | 傍線部の説明を問う設問 | | 2 | 2 | | 4 | |
| | 傍線部の意味を問う設問 | 2 | | 2 | | | |
| 本文の内容を問う設問 | | 4 | | 4 | | 2 | |
| 作文 | | | | | | | |
| 合計 | | | 50 | | 50 | | 50 |

神奈川 横須賀 数学 出題傾向と対策

出題傾向の分析

出題構成は、大問 6 題、うち 2 題が独立小問集合形式で、総小問数は、18 題でした。問 1 は、式の計算、根号の計算、因数分解、連立方程式、円と角、円錐の表面積・体積の出題で基本的な内容でした。問 2 は、さいころを使った確率、関数と変域、規則性と方程式、円と多角形からの出題で、計 5 題でした。問 3 の関数は基本通りの攻略法で進めればよいものでした。(ア)では、点 D の y 座標が、点 B の座標をもとに相似を利用して求めることができ、代入によって曲線②の式は求まりました。(イ)は、高さの等しい台形の面積の比較なので、(上底+下底)の比が面積比となることを利用します。直線 l の式を $y=bx$ としたときに点 E、F の x 座標があるので、代入し y 座標を b を用いて表し、 $(CF+DE):(BC+AD)=3:8$ として式をつくり解きます。問 4 は、空間図形で、(ア)は表面上の最短経路の基本的問題でした。展開図上で線分として結び三平方の定理を用いて求めます。(イ)は求める三角形が二等辺三角形であることに気がつくと解法が見えてきます。点 K の位置を把握するためにまず面 P 上で考え、そのあといずれかの直角三角形上で三平方の定理を使って必要な長さを求めます。問 5 は、三角形の辺上を移動する 2 点とその点を結んでできる図形の面積についての問題でした。三角形が 3:4:5 の直角三角形であることを利用して解いていき、その過程を記述するものでした。問 6 は、比較的易しい証明問題でした。一方の角は同じ弧に対する円周角が等しいと半径がつくる二等辺三角形の底角として示し、もう一方は、円周角が中心角の 2 分の 1 であることと三角形の外角の性質を用いて示します。後半は「=」を使い続けることで示すわけではないので様々な内容を記述することに慣れておきたい。

入試までに準備しておくこと

規則性を利用した問題だけでなく、関数の問題、図形の問題に方程式を利用するものが出題されています。図形、関数ともに一般的な面積、体積、直線を求める問題だけでなく、一部を文字でおき、方程式を立てる形式の問題に慣れる必要があります。証明問題は比較的易しいものでしたが、記述式なので、日頃から「分かるから省略する」ということはせず、しっかり書く練習をしましょう。これは、記述形式の図形を用いた方程式の問題も同様です。

| 領域 | 内容 | 配点 | | |
|----------|------------|--------|------|------|
| | | 22年度 | 21年度 | 20年度 |
| 数と式 | 数の性質・表現 | | | |
| | 数の計算 | | | |
| | 式の計算 | 2 | | |
| | 平方根 | 2 | | |
| | 多項式の乗法 | | | |
| | 因数分解 | 2 | | |
| 小計 | | 6 | 0 | 0 |
| 方程式 | 1次方程式 | | | |
| | 連立方程式 | 2 | | |
| | 2次方程式 | | | |
| | 方程式の応用 | 6 | | |
| | 不等式・不等式の応用 | | | |
| 小計 | | 8 | 0 | 0 |
| 関数 | 比例と反比例 | | | |
| | 1次関数 | | | |
| | 2次関数 | | | |
| | 変化の割合・変域 | 3 | | |
| 関数と図形 | 直線と曲線 | 3 | | |
| | 関数と図形 | 3 | | |
| 小計 | | 9 | 0 | 0 |
| 三角形・四角形 | 角度 | | | |
| | 作図 | | | |
| | 合同 | | | |
| | 相似 | 5 | | |
| | 三角形 | | | |
| | 平行四辺形 | | | |
| | 円と平面図形 | 円周角の定理 | 2 | |
| 円と弧・弦・接線 | | | | |
| 空間図形 | 線分、線分比 | | | |
| | 面積、面積比 | 3 | | |
| | 点の移動と図形 | 4 | | |
| | 線分、線分比 | | | |
| | 面積、面積比 | 2 | | |
| 空間図形 | 体積、体積比 | 2 | | |
| | 点の移動と図形 | 6 | | |
| | 回転体、球 | | | |
| | 小計 | 24 | 0 | 0 |
| 確率 | 場合の数 | | | |
| | 確率 | 3 | | |
| 総合問題 | 数と式 | | | |
| | 図形 | | | |
| その他 | | | | |
| 小計 | | 3 | 0 | 0 |
| 合計 | | 50 | 50 | 50 |